



# セーフコミュニティ通信 第12号

発行：平成30年2月 郡山市セーフコミュニティ推進協議会

祝

## セーフコミュニティ国際認証取得！国内15番目、県内初！

2018(H30)年2月2日、郡山市セーフコミュニティ認証式(会場：ホテルハマツ)を開催しました。

式では、約250名の出席者が見守る中、国際セーフコミュニティ認証センターと郡山市が「外傷管理プログラムを継続的に実施する」ことについて合意書を交わし、郡山市は国内15番目、県内初となる国際認証を取得しました。(世界391番目)

今後も、推進体制を充実させるとともに、科学的なデータ分析とPDCAサイクルによるカイゼンを加えながら、「けがや事故の予防活動」で安全・安心なまちづくりを推進します。



a WHO initiative

認証された自治体のみが使用できる認証ロゴマークです



国際セーフコミュニティ認証センターから授与された認証旗を持って記念撮影

(写真)セーフコミュニティ認証審査員、日本セーフコミュニティ推進機構代表理事、品川市長、佐藤議長、鈴木自治会連合会長、セーフコミュニティ推進協議会副会長、各委員会委員長



～郡山市セーフコミュニティ認証式～

～合意書署名～



合意書署名者

国際セーフコミュニティ認証センター長 デール・ハンソン氏

(写真左から)

日本セーフコミュニティ推進機構 代表理事 白石陽子氏

セーフコミュニティ認証審査員 ミカエル・グリブナ氏

セーフコミュニティ認証審査員 パイ・ル氏

郡山市長 品川萬里

郡山市議会議長 佐藤政喜氏

郡山市自治会連合会長 鈴木光二氏



合意書

<合意書本文>

国際セーフコミュニティ認証センター及び郡山市は、  
外傷管理プログラムを継続的に実施することについて合意する。この取組は、市域全域のすべての年齢の住民、あらゆる環境や状況を対象とするものである。私たちは、取組を記録・評価し、自らの経験を積極的に国内外に普及させていくことについてここに合意する。 日本国 郡山市 2018年2月2日

～認証盾・認証旗授与、認証センターメッセージ～



パイ審査員から認証盾の授与

～式辞～



グリブナ審査員から認証旗の授与

～祝辞～



認証センターメッセージ  
(読上げ グリブナ審査員)



品川萬里郡山市長



佐藤政喜郡山市議会議長



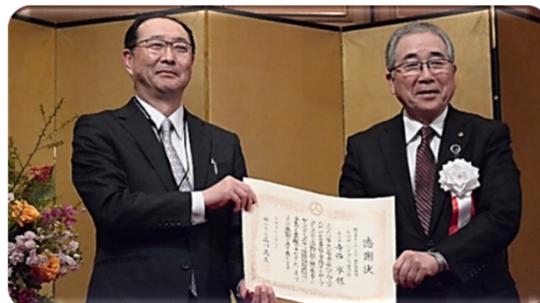
鈴木正晃福島県副知事

～記念演奏～

アンダンティーノ弦楽四重奏団



～品川市長から感謝状贈呈～



代表受領 外傷サーベイランス委員会 寺西 寧 委員長

これまで郡山市のセーフコミュニティ活動に取り組んできたセーフコミュニティ推進協議会会員、各委員会委員の皆さんへ、郡山市長から感謝状を贈りました。



～記念講演～

◆講師

セーフコミュニティ認証審査員 パイ・ル 氏  
 <台湾のセーフコミュニティ>

◆講師

神奈川県厚木市長 小林 常良 氏  
 <厚木市のセーフコミュニティ>



～新たなステージのキックオフ（認証祝賀会）～



認証取得を「新たなステージのキックオフ」と捉え、より一層のセーフコミュニティ活動の推進を誓いました。また、活動当初から支援いただいている日本セーフコミュニティ推進機構の白石代表理事からは、「郡山モデル」として取組を進めてほしいとエールをもらいました。



ありがとうございました



全国の推進自治体、認証審査員、日本セーフコミュニティ推進機構からお祝いの品をいただきました。

全国のセーフコミュニティ推進自治体

- 京都府亀岡市
- 青森県十和田市
- 神奈川県厚木市
- 長野県箕輪町
- 東京都豊島区
- 長野県小諸市
- 神奈川県横浜市栄区
- 大阪府松原市
- 福岡県久留米市
- 埼玉県北本市
- 埼玉県秩父市
- 鹿児島県鹿児島市
- 滋賀県甲賀市
- 大阪府泉大津市
- （認証順）
- 埼玉県さいたま市
- 山梨県都留市
- （認証取得に向け活動中）

～全国のセーフコミュニティ推進自治体の取組紹介～



全国の推進自治体の取組をパネルなどで紹介

0才～17才の救急搬送件数 [一般負傷事故]

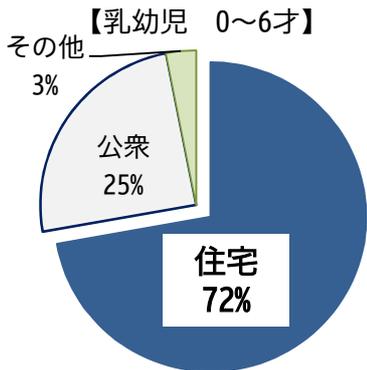
平成25年から平成28年までの一般負傷事故での救急搬送は732件でした。(内訳：軽症87%、中等症12%、重症1%)

[一般負傷事故]交通事故、運動競技、労働災害、自損行為、加害、火災、水難、自然災害に分類されない不慮の事故をいいます。

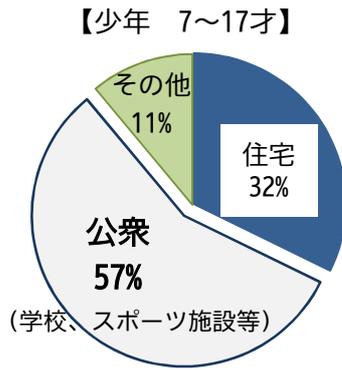


郡山地方広域消防組合は、けがなどを予防する『予防救急』に取り組んでいます。

一般負傷事故の発生場所

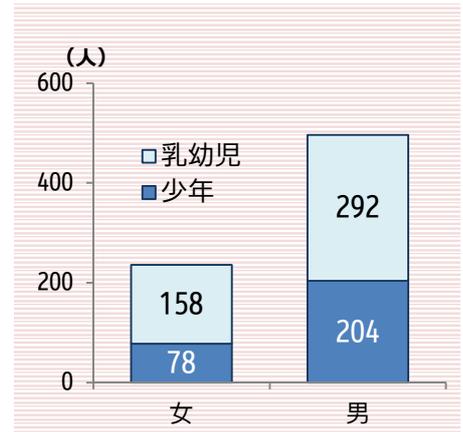


乳幼児は住宅での発生率が高く、自宅内であっても危険性が高いことを示しています。



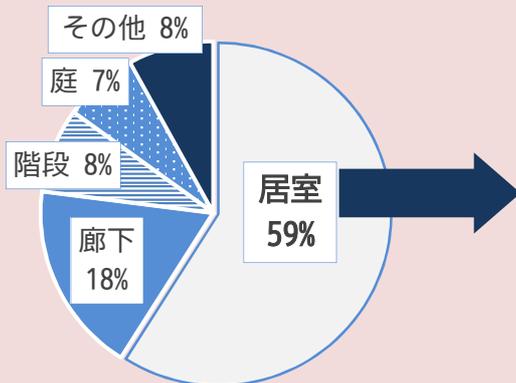
少年になると行動範囲が広がり、公衆の占める割合が57%となり、このうち学校、運動場など体を動かすことが多いところでの発生率が高くなっています。

<男女別搬送者数>



男女別にみると、男児のほうが発生件数が高くなっています。

乳幼児の住宅での負傷について、場所を詳細に見てみると…



居室での負傷原因	割合
衝突	25%
誤飲	24%
転落	14%
転倒	14%
熱傷	12%
その他	11%

けがの中で最も多かったのは、「顔・頭・首」のけがでした。

乳幼児では54%、少年では44%とほぼ半数を占めており、次いで「手足」のけがが比較的多くなっています。

小児は、成人と比べると体の割に頭が大きく、重心が高いため、転倒・転落によって頭部を打撲しやすくなっています。

《お知らせ》「セーフコミュニティ」の出前講座

町内会や地域の会合、ご近所の方の集まり…などの場職員が出向いてご説明する「市政きらめき出前講座」を行っています。  
お気軽に市民安全課へご連絡ください。(電話 924-2151)



無料です

発行 郡山市セーフコミュニティ推進協議会

【お問合せ・連絡先】

郡山市市民部市民安全課セーフコミュニティ推進室(郡山市役所西庁舎3階)

電話024-924-2151 ファクシ024-921-1340

メールアドレス siminazen@city.koriyama.lg.jp



郡山市 セーフコミュニティ

検索

セーフコミュニティ通信第12号

市民意識調査の結果、郡山市のけがや事故の状況等のデータなどがダウンロードできます